

Contents

P.1-P.2 新代表挨拶	小野寺 崇, 山村 寛
P.2 IWA-YWPとJapan-YWPについて	山村 寛
P.3-P.4 【特集】～学生委員が行く！お仕事インタビュー～	鈴木 祐喜
P.5 今後の予定	
P.5 Japan-YWP入会方法とお問合わせ	
P.5 編集後記	

●2016年4月より新体制が発足しました！

2016-2017年度 Japan National Young Water Professionals (Japan-YWP) 運営委員会は、2人の共同代表のもとで活動を行います。今後の活動予定・活動報告についてはJapan-YWPのホームページ(<http://www.japan-ywp.site/>)およびフェイスブック(<https://www.facebook.com/JapanYWP>)で随時発信します。

新代表挨拶



小野寺 崇(国立環境研究所)

第4期(2016-2017年)のJapan-YWP共同代表の小野寺です。今期では同じ共同代表の山村氏をはじめ運営委員全員でチームワークを発揮して、セミナー等のイベントや広報活動の充実を図り、より魅力的なJapan-YWPとしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

さて、YWPではセミナーやメーリングリストを通じて、事業・技術・研究・行政・海外に関する動向の最新情報を共有してきました。YWPの魅力の一つは、気軽に参加できるセミナーにおいて雰囲気の中で、立場、所属、経験の異なる多くの若手の幅広いネットワークが構築できることです。自分の経験や業務を紹介し、他の会員の話に耳を傾けることで、見識を深

められるだけでなく、改めて自分の業務を見つめ直すことにつながり、日々仕事に対するモチベーションが高まることも多いのではないのでしょうか。このネットワークを維持・発展させ、YWPをより有意義な場とするために、今後も是非セミナー等に積極的に参加して頂きたいと思います。また、職場の若手や大学の後輩など、次の世代の若手を勧誘して、仲間を増やして頂きたいと考えています。

最後に、YWPセミナーでお会いした2人の講演者の印象的な言葉を紹介します。2人とも海外経験をお話しいただき海外での意思疎通に関して質問した私に対して、一人の方は「国籍が違って水道人として通じ合うから(一緒に)仕事ができる」とお答えし、もう一人の方は「海外での意思疎通はとても大変。だからこそ、日本では日本語で簡単に意思疎通できることは、とても特別なことだと気づいた」と力説されました。そうです、私たちは同じ「水」に関する仕事に取り組み、同じ「言語」で意思疎通ができる仲間です。集わない理由は無いはずです。

新代表挨拶



山村 寛(中央大学)

1期が2年とすると Japan-YWPIは立ち上げから3期6年が経過し、今期で4期目になります。これまでにJapan-YWPの立ち上げ・運営に携わってきた諸先輩に感謝・敬意を表しますと共に、設立理念でもある「日本の水に関わる若手を結ぶプラットフォーム」としての役割をさらに充実すべく、人と情報が活発に交流するような組織となるよう尽力したいと考えております。2年間と短い時間ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

今回、単独の代表から共同代表に変更した理由の一つに「Japan-YWPの国際戦略」があります。この2年間、世界各国でYWP組織が立ち上がっており、アジアパシフィック地域では中国、台湾、韓国、シンガポール、インドで新たにYWPが設立されました。Japan-YWPは世界のYWP組織の中で一番メンバーが多く、かつ最も活発な組織であり、アジアパシフィック地域のYWPをリードする役割を期待されています。これから2018年のIWA東京大会に向けて、Japan-YWPがアジアパシフィックYWPの情報と人の交流拠点となるような国際交流プラットフォームを構築したいと考えています。

今後、Japan-YWPIに関してご意見やご提案などがありましたら私達までご連絡ください。今年度より2ヶ月に1度、運営委員会を開催することになり、意思決定が早くなりました。どうぞよろしくお願いいたします。

IWA-YWPとJapan-YWPIについて

山村 寛(Japan-YWP共同代表、中央大学)

最近、International Water Association (IWA)では若手の育成と啓発に向けて世界各国でYWP組織の強化に力を注いでいます。これから、IWAが関係する国際会議やシンポジウムでも、少しずつYWPのイベントが同時開催されるようになると思います。多くの方にIWA-YWPのイベントに参加していただきたいのですが、やはりIWA-YWPという組織を知らないことには、参加しにくいと思います。ここでは、簡単にIWA-YWPとJapan-YWPIについて説明したいと思います。

2009年に、IWAではYoung Water Professionalsという組織が正式に設立され、主に若手(学生)に向けた イベントやサービスを提供するようになりました。現在でも、IWA-YWPのイベントは修士課程や博士課程に向けた内容が中心となっており、履歴書の書き方、論文の書き方、あるいはキャリア形成に関するセミナーなどを積極的に展開しています。IWA-YWPは本部のKirstenと11人の地域毎の運営委員によって運営されています。Japan-YWPIは「アジア・パシフィック地域」に所属しており、同じ地域には、インド、シンガポール、マレーシア、中国、韓国、台湾、オーストラリアがあります。2年に一度、アジア・パシフィック地域のYWP国際会議が開催される他、3年に一度、世界IWA-YWP国際会議が開催されます。また、IWA世界会議(IWA World Water Congress)では毎年開期中にYWPセッションが開催されます。今年は「Emerging Water Leaders Forum」が10月11日(木)15:30~17:00に開催されます。35歳以下の方で世界会議に参加される方は、Forumにも遠慮せずに参加しましょう！

さて、続いてJapan-YWPIについて説明します。Japan-YWPの正式名称は、「Japan National Young Water Professionals」だったことを、皆さんはご存じだったでしょうか？実は、この「National」という単語がJapan-YWPの立場を表す際に重要な役割を担っています。Japan-YWPはIWA日本国内委員会の下部組織として、2010年3月5日に設立されました。当時は日本を含めて数カ国が支部(Chapterと呼ばれています)を設立し、運営形態や会員の資格などは支部毎に任せられていました。このため、IWAが定めるYWPの基準は35歳以下ですが、Japan-YWPには年齢制限がありません。また、Japan-YWPIはIWA会員の入会も不要となっています。Japan-YWPIは会員の年齢層が広いので、学生向けのイベントの他に、水に関する勉強会や講演会なども積極的に開催することで、水関連の研究者、事業体、民間の若手が情報を共有し、ネットワークを構築する機会を創出しています。皆さんの周りの若手(&心が若い先輩達)を誘って、Japan-YWPのイベントにどんどん参加しましょう！

学生委員が行く!

【特集】お仕事インタビュー

取材者 学生委員
東洋大学4年 後藤 千晶
山口 里奈



鈴木 祐喜さん
スイング
水ing株式会社 (入社3年目)

「将来どのようなことがしたいか明確に決まっていな…」という学生は非常に多くいると思います。そんな学生に向けて、「水」の分野の仕事を知ってもらい、そして興味を持ってもらうために、水業界で活躍されている若手の方に学生視点で仕事や心構えについてお伺いしました。

初回となる今回は、水ing株式会社の鈴木祐喜さんにインタビューを行いました。

学 = 学生委員 **鈴** = 鈴木祐喜さん

水業界に足を踏み入れようと思ったきっかけは何でしょうか?

学

鈴 私が高校生の頃、テレビ番組の企画で自身の自宅近所にあった溝川と呼ばれるほど汚い河川を、専門家や地域住民、報道機関が協力して綺麗にするというプロジェクトを見て、深く感動したことがきっかけで自身も同じようなことがしたいと思い、この分野を志すようになりました。

普段どのようなお仕事をされていますか?

学

鈴 私は現在、研究開発部門に所属しています。ここでは「水と環境に関わるあらゆるソリューションを通じて豊かな社会づくりに貢献する」という企業ミッションの下で、お客様の課題解決に資する最適な水処理技術や処理フローの確立、改善提案など多岐に渡る取り組みを行っています。

仕事内容のイメージとしては、理系の学生の研究とあまり変わりはありません。しかし、学生の研究とは違い、結果を出すまでの時間の制約がより厳しいこと、研究開発部門の各々が同時に複数の案件やテーマなどを掛け持っていることなどが異なっていると思います。

仕事に対する面白さ、やりがいはどういう時に感じますか?

学

鈴 仕事の面白さ・やりがいは、自分がまだまだ無知であることを毎日実感できることです。水処理の分野を志し始めた高校生の頃から今まで、様々な知識を身につけようと努力してきました。しかし、水処理会社の一員となり、自分がどれだけ浅い部分でしか水処理というものを理解していなかったということを痛感しました。自分には成長の幅がまだまだあることを実感できること、それを学ぶ場が目の前にあるということが、仕事をする上での一番の楽しさややりがいになっています。

解決が困難な問題に直面した時に、どのようにして乗り越えていますか?

学

鈴 まだまだ知識や経験の足りない自分にとって、解決策の思いつくことが出来ない場面には多々遭遇しています。そのような時は、水処理のプロである先輩方に積極的に相談し、知識や経験などを吸収するよう努めています。また、限られた時間の中でも、常に知識の幅を広げること、新しい知見を得るために、文献調査などによる情報収集がおろそかにならないよう心掛けています。

その他、自身の検討や考察した結果が実際の水処理施設を設計・建設するための基盤となるものであるということを常に意識して行うことを心掛けています。

(前ページより続き)



インタビュー時の様子

将来の目標はありますか？

学

鈴

私の将来の目標は、「水」の技術者として世界の水問題解決を今まで誰も考えたことのないアプローチで達成することです。

私が「水」という分野で生きていくと決めた根の部分には、水処理の技術者になることがあります。そのため、一流の水処理技術者としての知識や経験、専門性、思考力を身に付け、世界で活躍できる人材であると自他共に認められるようになるために、社会人ドクターを取るという目標を自身に課しています。博士号取得後は、水処理の専門家であるというバックグラウンドを持って、その時々で自身が持つビジョンを実現していけたらと考えています。そして、そのビジョンの実現が、強いては世界の水問題の解決に繋がると信じています。

最後に学生の皆さんにメッセージをお願いします。

学

鈴

興味のあることや感動した出来事を振り返り、自分が何に心が動かされるのか今一度見直してみてください。それに対してどのようにアプローチするか考え、足りないものを補う努力をしていくことで、おのずとやりたいことが見えてくると思います。

また、学生のうちにやっておいた方が良いと思うことは、「**純粋に自分が興味のあることについて勉強すること**」「**多種多様な分野における人脈づくり**」「**学生という立場でいる期間を大切にすること**」の3つが挙げられます。

「純粋に自分が興味のあることについて勉強すること」

社会人になると純粋に自分が勉強したいことに対して割ける時間が本当に限られてしまいます。そのため学生のうちに、(1) 自分のやりたい仕事を強くイメージし、そこから逆算して自分に必要なことを考えて、それについて勉強しておく、(2) 将来自分の専門としていきたい分野に限らず、幅広い分野について勉強しておくことが重要だと思います。(2)に関しては「水」関連の仕事を目指すのであれば、「水」というもの自体が多種多様な分野や側面に関係しているものであるため、どのような分野を勉強したとしても将来何らかの形で仕事に役立つと思います。

「多種多様な分野における人脈づくり」

社会人になって新たに出会う人は多くなりますが、自身が所属している企業や同分野の方が中心となってしまいます。そのため、学生のうちに多種多様な分野の人に出会い、交流を深めておくことをお勧めします。多様な分野の幅広い知識や価値観に触れ合うことで、様々な技術や分野を横断的に繋いだ解決策を提案できる人材になれるきっかけになると思います。

「学生という立場でいる期間を大切にすること」

学生だからこそできる経験がたくさんあります。企業に所属すると、様々な面でその肩書きによる制限が入ります。社会人とのディスカッションや施設見学、大学教授や企業人をお招きした講演会の開催など、「学生」だからこそ出来ることを「学生」のうちに考え、実行しておくべきだと思います。

～インタビューを終えて～

私たちも自身の将来に関して漠然としか考えていませんでした。しかし、今回のインタビューを通じて、社会人として大切な心意気や将来を見据えたアプローチの仕方を学びました。今後、現状に満足せずに日々小さな目標を立て、将来へのビジョンを確立していきたいと思います。

読んでくださった皆様方にも、この記事が将来を考えるきっかけになればと思います。

～ 鈴木さん、水ing株式会社の方々貴重なお時間をありがとうございました～



水ing株式会社 受付前にて

<今後の予定>

2016年 8月27-28日 Japan-YWP国際シンポジウム(WET2016) @中央大学後楽園キャンパス

2016年11月 海外水道フォーラム @日本水道協会全国会議(京都)

2017年 1月頃 総会およびセミナー @会場未定(東京)

2017年 3月 水環境学会でのセミナー @日本水環境学会年会(熊本)

※最新のイベント情報について随時WebサイトおよびFacebookで更新しております

Japan-YWP入会方法とお問合せ先

Japan-YWPは、随時会員募集中です。会員要件は、大学・研究機関、官公庁、上水道・下水道事業体、民間企業などに所属する水関連の若手・学生(原則35歳以下)とし、専門内容やIWA会員であることの有無は問いません。また、年会費等は不要です。入会手続きはメールまたはWebサイトから行えます。

■メールから

入会希望の方は、

- ①所属
- ②氏名
- ③生年月日
- ④E-mailアドレス
- ⑤専門分野

を明記の上、以下のメールアドレスまでお気軽にお申込みください(japanypw@gmail.com)。

■Webサイトから(右図参照)

Webサイト(<http://www.japan-ywp.site/>)の入会フォームからも入会手続きが可能です。トップページの「Japan-YWPへのご入会はこちら」から入会フォームへお進みください。



こちらから
入会申込みができます!

編集後記

2016-2017年度運営体制で最初の発行となる第11号ニュースレターでは、新企画としてJapan-YWP学生委員が水業界で働く若手にインタビューする「お仕事インタビュー」を掲載いたしました。学生の方もJapan-YWPに興味を持っていただけるように、今後も学生委員発案の企画を続けていきたいと考えています。また、ご感想・ご意見がございましたら、ぜひ広報委員にお知らせください。今後も積極的にJapan-YWPの活動を皆様にご報告したいと思います。最後になりましたが、ニュースレターを作成するにあたりご協力いただきました皆様ありがとうございました。

(Japan-YWP広報委員)